

新潟職能短大通信

「よい環境がよい人材を育成します」



新発田市は海あり山ありと、美しい自然環境に恵まれていていると思います。

本校は四月五日に入学式を行い百三名の新入生を迎えることができました。今年で十九年目を迎えます。卒業生はこれまでに千七百名を数え、産業界の中堅として活躍しております。



記念撮影2010.4.15

四月十五日には満開となった桜の下で記念撮影を行いました。

本校のカリキュラムの特徴は、企業で今使われている技能・技術に関して実技を中心に必要な専門知識を

併せて訓練する実学融合の教育訓練システムです。また、二年次に行う卒業制作実習では、それまで学んできた専門知識と技能・技術を活かして構想設計、加工、組立て、調整、評価と一連の工程を学内で経験することが出来ます。

卒業生が、社会に出て技術者として努力を続け、経験を重ね、達成感が実感できる実践技術者として育つこと、すなわちテクニシャン・エンジニアの育成が当校の使命の一つと考えており当校では、次の世代を担う子供達に、ものづくりの楽しさを体験してもらいために、新発田まつりの八月二十九日(日)に併せて「ものづくり体験教室」の開催を予定しております。当校は地域に根差した人材育成施設を目指して努力をしてみたいと思います。今後とも本校の活動に関しまして関係各位のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学務援助課長

小林 清晃

「大倉翁と新発田」(六)

川瀬勝一郎

大倉組商会の設立

明治二年、榎本武揚が函館の五稜郭で降伏、維新の動乱は終息した。

翁は、明治四年、外国貿易の先進地横浜に「横浜商会」を設立、内外貿易商をめざしたが、西欧化の先端をゆく、洋服の流行を察して、日本橋本町に洋服店を開業。また、政府の土木事業に目をむけ、新しい日本の課題」として、新橋駅の工事などに参加している。

この変動する社会の中で、新政府の動きとその課題を見極め、自分の進む道をはっきりつかんでの新しい出発であった。

翌明治五年、翁は私費で欧米視察に出る。政府の欧米視察団に商人が一人も入っていないのを遺憾としたが、「富国強兵の富国は商人で」の自負もあった。約

一年五カ月の旅だったが、ロンドンには十月月滞在した。帰国すると明治六年、「横浜商会」を「大倉組商会」と改称、資本金十五万円を銀座に社屋を建築し、輸出入貿易に本格的に取り組んだ。翁、三十六歳。明治七年にはロンドンに支店を開設している。

以後、明治・大正にかけて翁の活動はめざましく、事業は発展して国内全域から中国にまで及び、大倉財閥を形成。財界に重きをなした。

山路愛山はその著『現代金権史』で、翁の活動を「維新の事業の特質は百事新たなるにあり、独り政治上の改革のみならずして、……財界にもまた新人物を見るに至れり」と翁の活動を評価している。



大正4年
東京・銀座「大倉組商会本館」
(鉄筋5階建て)